県政活動報告だより vol.9

発行/令和8年11月

宮城県議会議員 **杉原たかし**

発行者：杉原崇
事務所：宮城県宮城郡松島町磯崎字磯崎100－29
連絡先：０９０－１４９８－５６７３
メール：sugihara.miyagi@gmail.com
HP：https://be-blue.jp/

【ご挨拶】

日頃より、県政活動に対しまして温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

今定例会では、県民の皆様の安全・安心を守るため、補正予算においてクマ対策の強化が図られるなど、地域が直面する様々な課題について議論が行われました。

私も総括質疑などを通じて、地域の皆様からいただいた声を県政に届けるとともに、イチゴなどの大規模園芸の振興による農業の競争力強化、松くい虫被害から大切な松林を守るための対策、イノシシによる農作物被害の防止など、地域課題の解決に向けた具体的な提案を行ってまいりました。

人口減少や担い手不足が進む中にあっても、地域の産業や暮らしを守り、次の世代へとつないでいくことが重要です。そのためにも、これからも現場に足を運び、皆様の声を直接伺いながら、一つひとつの課題を県政につなげてまいります。

今号では、県議会での議論や地域での活動、今後に向けた取組についてご報告いたします。引き続き、松島町・利府町、そして宮城県のさらなる発展に向け、全力で取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第401回県議会（令和８年９月定例会）において、決算総括質疑を行いました

全質問につきましてはインターネット中継をご覧いただけます。

Facebook　X　Instagram　YouTube　TikTok
杉原たかしの情報を発信中!

1 園芸産出額の拡大に向けた大規模園芸の推進について

問 イチゴなど園大規模園芸施設の整備費は大きく上昇している。「大規模園芸経営体育成事業」の補助上限額の引上げや、資材価格等の上昇によって、意欲ある経営体が大規模化への投資を断念することがないよう、それに見合った支援を県として行っていく必要があると考えますが、補助上限額の引上げや、事業費の高騰に対応した支援の拡充など、意欲ある経営体が大規模化への投資に踏み出せる制度へと更なる強化を図るべきと考えるがどうか。

答 意欲ある経営体が将来を見据えて、大規模な投資に踏み出せるよう、施設整備費の動向や事業活用の要望などを丁寧に把握するとともに、国庫補助事業なども最大限活用しながら、引き続き事業者の取組をしっかりと支援していく。

問 県内の農業者を育成するだけではなく、県外から新たな投資を呼び込み、大規模施設園芸や植物工場の立地を促進していくことも重要である。投資規模等に応じて補助率を引き上げる、あるいは段階的に補助上限額を引き上げるなど、「みやぎ大規模施設園芸立地奨励金」を、企業から選ばれる制度へと抜本的に拡充すべきと考えるがどうか。

答 これまでこの立地奨励金を活用した企業参入後ではまだないので、まずは実績を積み重ねていくことが肝要と考えている。関係市町村などと連携した誘致体制の強化を図りつつ、植物工場を含む大規模な園芸施設の誘致に積極的に取り組んでいく。

2 産業獣医師の確保について

問 豚熱や高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病への対応をはじめ、本県畜産業を守る上で欠かすことのできない家畜衛生分野の獣医師を養成・確保するための「宮城県獣医師修学資金」について、現在1名となっている修学資金の募集枠を複数名へ拡大するなど更に充実させるべきと考えるがどうか。

答 大学訪問やインターンシップなどを通じまして、引き続き制度の周知に努めるとともに、今後の応募状況を踏まえながら、募集人員の拡大や対象方向性まで広げることについても検討していく。

問 小中学生への職業体験や学校への出前授業、高校生を対象とした修学資金や大学の地域枠との連携など、早い段階から獣医師を志す人材を育成し、県職員獣医師の確保につなげる仕組みを検討すべきと考えるがどうか。

答 各種の取組の効果を十分に検証いたしますとともに、他県の効果的な事例なども参考にしながら、引き続き獣医師確保の取組を一層推進していく。

「考えとかんがえるがどうか」→「考えるがどうか」に修正

3 鳥獣被害対策の強化について

問 カワウによる漁業被害への対策として、県内で初めて松島で実施したシャープシューティングの導入効果をどのように検証・評価し、実施場所や実施回数の拡大も含め、シャープシューティングをカワウ対策に今後どのように活用していくのか。

答 昨年度は4月～5月にかけての3日間で105羽、今年度は同時期に同じく三日間で31羽を駆除し、一定の繁殖抑制効果があった。引き続きモデル地区における実証試験を継続し、実施場所や実施回数も含め、今後の対策への活用について検討していく。

問 「第四期イノシシ管理計画」の成果と課題をどのように捉え、市町村の区域を越えた広域的な対策や農地や地域を守る「農家ハンター」など新たな捕獲の担い手の育成・確保の考えなど今後の対策は。

答 昨年度末の推定個体数は約38,000頭と目標の達成は厳しい状況にあり、被害額は1億円を超えるなど、再び増加に転じている。次期計画では広域的な生息調査と、効果的な捕獲手法を組合せた捕獲事業の強化や農業従事者自らが狩猟免許を取得し、鳥獣対策に当たる「農家ハンター」の育成等の取組を新たに盛り込む予定としている。

4 森林資源の保全と林業・木材産業の振興について

問 特別名勝「松島」地域を含め、県内で松くい虫被害が拡大しており、景観や観光資源としても極めて重要な松林への被害拡大を懸念している。県として現在の被害状況をどのように分析し、今後の推移をどのように見通しているのか。

答 長期的には減少傾向で推移しているが、昨年度の被害量は五年ぶりに増加に転じたほか、特別名勝松島地域においては、令和六年度から二年連続で増加している。今後の気象条件によっては被害が急激に増加する可能性もあり、引き続き適切な対策を講じていく。

問 現場で感じている被害状況と調査結果との間に乖離がある。松くい虫被害調査にドローンを活用する取組を進んでいるが、AIによる画像解析などの新たな技術と人による現地確認を組み合わせ、被害木調査の高度化・効率化を進め、被害実態に基づいた必要な防除や伐倒駆除を確実に実施できるよう、国に対して対策予算の拡充を強く求めるべき。

答 調査手法の改善を進めるとともに、被害の早期かつ確実な把握に努める、被害状況に応じた適切かつ効果的な防除体制の実施に向けて、国に対して予算の拡充を強く求めながら、必要な対策を講じていく。